

ニュージーランド 多雨により赤肉系キウイ品種が小玉化

FreshPlaza 2023年4月20日

新品種のルビーレッド(RubyRed)キウイフルーツは、異常に雨の多い天候により小玉化しており、輸出するには小さすぎる果実もあるため、ニュージーランドの生産者は経済的打撃を受ける可能性がある。ゼスプリは声明の中で、この赤肉系キウイフルーツ品種は自然の性質として他のキウイフルーツの品種よりも小さいとしている。しかし、異常に雨の多い気象条件と、最近果実を付け始めた若い果樹園が多いことから、今シーズンはさらに小さかった。果実のサイズが小さいということは、今年は輸出品質の果実が少ないことを意味する。

この赤肉のキウイフルーツ品種は2019年に初めて導入された。ルビーレッドの農場渡し価格は、輸出品質の果実で昨シーズンは21.99NZドルであったが、今シーズンは18NZドル、2026年には14NZドル強になると予想されている。(1NZドル(ニュージーランドドル)=約82円)

グリーンキウイフルーツなどの確立された品種が100年以上にわたって栽培されてきたのに対して、レッドルビーは、商業生産の2シーズン目に過ぎない。ニュージーランドでは約780ヘクタールのレッドルビーがライセンス供与されており、今年後半にはさらに150ヘクタールが追加される見込みである。

出典: stuff.co.nz

ペルー スイートグローブが最多の輸出ブドウ品種に

FreshFruitProtal 2023年4月21日

2022-23年度のペルーの生食用ブドウの出荷シーズンは、引き続き品種の再転換の兆候を示しており、スイートグローブが今シーズン最も輸出された品種としての王冠を手にしたと情報サイト Agraria.pe が伝えている。

スイートグローブは、今シーズンこれまでに18ポンド(約8.2kg)箱で1,600万箱以上が出荷され、2021-22年度の1,150万箱から40%近く増加し、市場の定番品種であるレッドグローブを200万箱以上上回った。

他の品種ではオータムクリスプとアリソンがこれに続き、2022-23年度にはそれぞれ680万箱及び590万箱が輸出された。

農産物輸出会社サフコペルー社の社長であるベンジャミン・シロニス氏によると、現在の市場動向は種なし白(緑)ブドウ品種の増加を示しており、レッドグローブが首位の座を失うのは20年ぶりである。

また、2022年後半から2023年初頭にかけての天候、物流、政治の問題により、収穫が遅いブドウの一部が失われた。

シロニス氏は、「1月のイカ県での道路封鎖により約70万箱が失われ、ピウラ県では1か月以上にわたって大雨が降っているため、晩生の収穫量のかなりの部分(推定が一層難しい)が失われたと推計している」と述べた。

同氏はまた、従来からの品種は減少傾向が続くと予想しているが、ライセンス制の緑色品種は「オータムクリスプ品種の大幅な伸びに後押しされて」増加を続けると予測されると述べた。

ペルー生食用ブドウ生産者輸出業者協会(Provid)の2022-23年度の2回目の収穫予測では、輸出は前年比13%増の7,300万箱と予想されている。